

# 東大阪市環境衛生検査センター一年報

第18号



令和5年度(2023年度)

東大阪市保健所

環境衛生検査センター

## はじめに

東大阪市環境衛生検査センターでは、検査機能の充実に努め、試験検査を通じて、公衆衛生や環境保全を科学的、技術的側面から支えるべく、日々、業務に勤しんでおります。

この度、令和4年度の事業内容を、年報第18号として取りまとめましたので、お届けいたします。

現在、公衆衛生の現場では新型コロナウイルス感染症に加え、細菌性食中毒、レジオネラ症など、市民の健康を脅かす事案が報告され、新型コロナウイルス感染症の5類移行後はコロナ禍前に戻りつつあるインバウンドによる人の行動範囲の拡大により、新たな輸入感染症の発生に備えた体制作りなど、様々な課題が山積しています。

新興感染症等の有事の際には、その対処の一端を担う地方衛生研究所は科学のかつ技術的に中核となる機関であり、5月には健康危機管理体制を強化するため、国立健康危機管理研究機構法とその整備法の中で地域保健法が改正され、法的位置づけも明確にされたことで、取り巻く状況も大きく変化し、その役割はこれまで以上に重要視されています。

感染症危機を見据えた体制整備等を行い、有事には感染症の発生のまん延の防止を図るため、健康危機対処計画の策定により、国立試験研究機関等が実施する研修を活用した人材育成や精度管理を活用した検査の質の向上に努めるなどこれまで以上に地方衛生研究所等と緊密な関係を構築し、検査体制やサーベイランスの強化を図り、地方衛生研究所としての底上げを図りたいと思っております。

今後も市民の安全、安心のために尽力して参りたいと考えておりますので、皆様方のご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

令和6年1月

東大阪市保健所 環境衛生検査センター  
所長 奥村 聡

## 目 次

### 第1章 概 要

1. 沿 革	-----	2
2. 施設概要	-----	3
3. 組 織	-----	4
4. 予 算	-----	6
5. 主要機器	-----	7

### 第2章 試験検査

1. 試験検査実施状況	-----	10
2. 微生物検査業務	-----	11
3. 食品理化学検査業務	-----	15
4. 環境衛生検査業務	-----	22
5. 公害調査業務	-----	26

### 第3章 その他

1. 会議・研修等への参加	-----	32
---------------	-------	----

# 第1章 概 要

## 1. 沿革

昭和58年4月に保健所が東大阪市に移管され、試験検査も東大阪市で対処することとなり、環境衛生課に検査室を設置したが、専用の検査施設は無いため、西、中、東の3保健所検査施設を利用した検査体制でスタートした。

一方、昭和50年度より公害部門で実施していた検査部門も平成5年に検査室に統合されたが、専用の施設は持てず、施設の効率的統合や専門化を図り対応してきた。しかし、ますます広範囲で複雑化、高度化する新規検査技術や精度管理技術導入に抜本的な対策が必要となってきた。

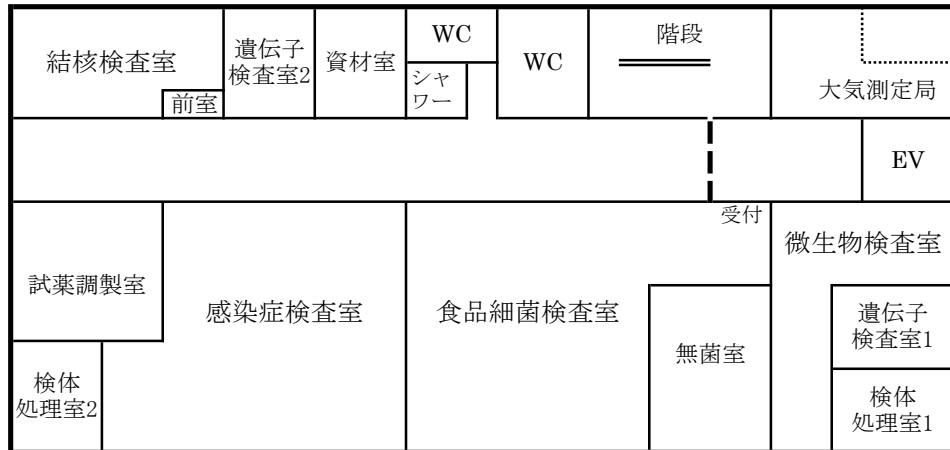
このため、新保健所整備計画の一環として、旧公害監視センターの全面改修による一元化した検査専用施設を平成16年4月に整備し、平成17年4月に環境衛生検査センターとして開設した。

昭和58年4月1日	保健所法に定める政令市指定を受ける。
昭和59年4月1日	環境衛生課に検査室を設置。既存の3保健所検査施設で業務を実施。 (西保健所で食品検査、中保健所で感染症・臨床検査、東保健所で水質検査)
平成5年4月12日	機構改革により環境衛生課検査室と公害対策室環境監視課分析係を統合、生活衛生課検査室となる。(検査施設は既設施設で分散のまま。)
平成6年4月1日	理化学検査機能を公害監視センター検査室に、微生物・細菌検査機能を西保健所検査室に集中、2施設を利用した検査室体制とする。 食品残留農薬検査、水道法水質基準46項目検査、水質環境中の新化学汚染物質及び農薬検査を開始。
平成10年4月1日	検査体制を専門分野別に「微生物検査部門」、「理化学検査部門」、「環境衛生検査部門」及び「公害検査部門」とする。 有害大気汚染物質調査を開始。
平成12年4月1日	組織機構改革により1保健所となり保健所総務課検査室となる。
平成16年4月1日	保健所整備計画の一環として、検査機能を統合した検査専用施設「環境衛生検査センター」を整備。
平成17年4月1日	東大阪市が中核市となり、組織も東大阪市保健所環境衛生検査センターとなる。 新水道基準50項目、ノロウイルス、レジオネラ等検査を開始。
平成17年5月13日	地方衛生研究所全国協議会に加入。
平成18年8月18日	近畿2府7県及び8市の間で締結した「健康危機発生時における近畿2府7県地方衛生研究所の協力に関する協定書」に参加。
平成20年4月16日	検査体制を「微生物検査部門」と「理化学検査部門」の2検査部門に再編し、理化学検査部門に食品検査担当と環境検査担当を置く。
平成24年3月23日	食品放射能測定システム整備、流通食品のスクリーニング検査を開始。
平成31年4月1日	「理化学検査部門」の食品検査担当と環境検査担当を統合。
令和2年4月1日	新型コロナウイルスの検査を開始。

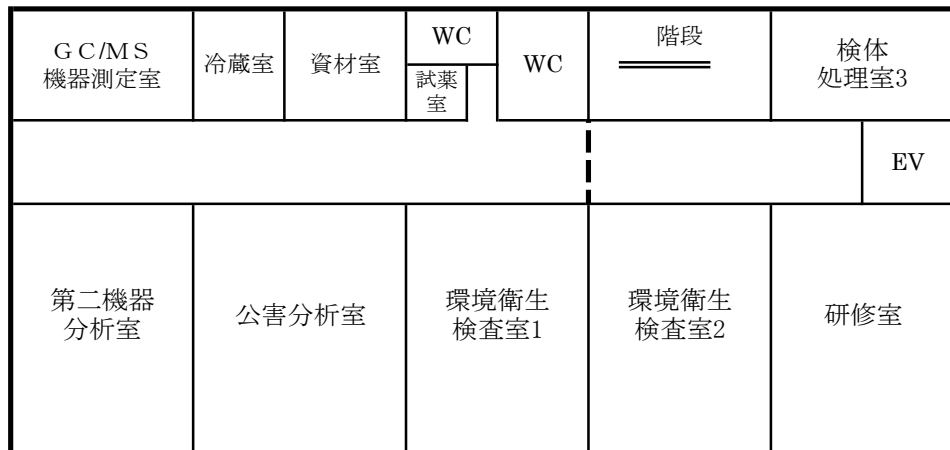
## 2. 施設概要

場 所	東大阪市西岩田三丁目3番2号		
構 造	鉄筋コンクリート造 3階建		
延べ面積	1, 239.48 m <sup>2</sup>	3 F	389.12 m <sup>2</sup>
		2 F	389.12 m <sup>2</sup>
		1 F	442.32 m <sup>2</sup>
		(ボンベ庫等施設 18.92 m <sup>2</sup> )	

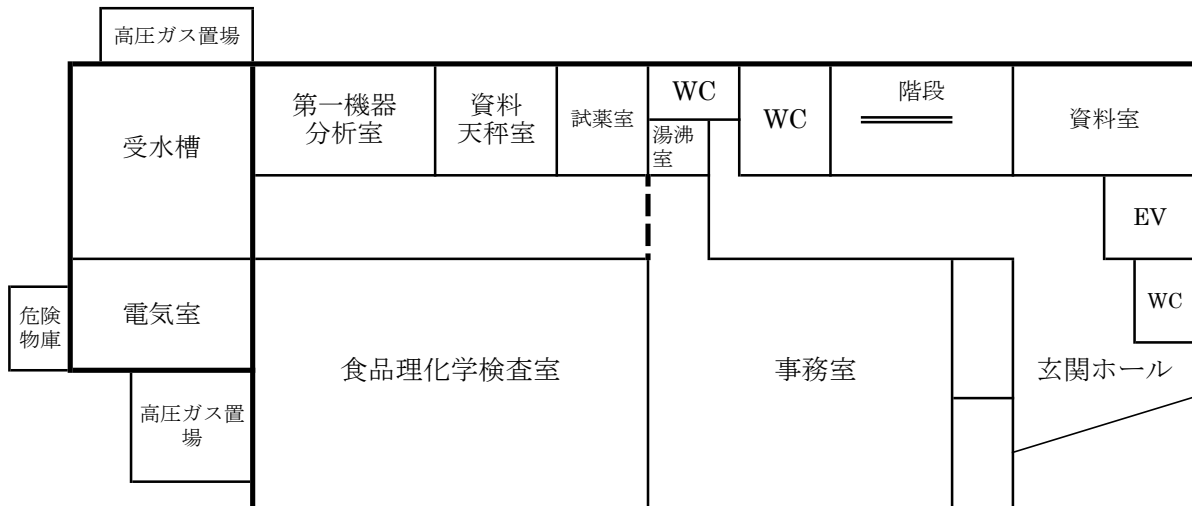
3階平面図



2階平面図

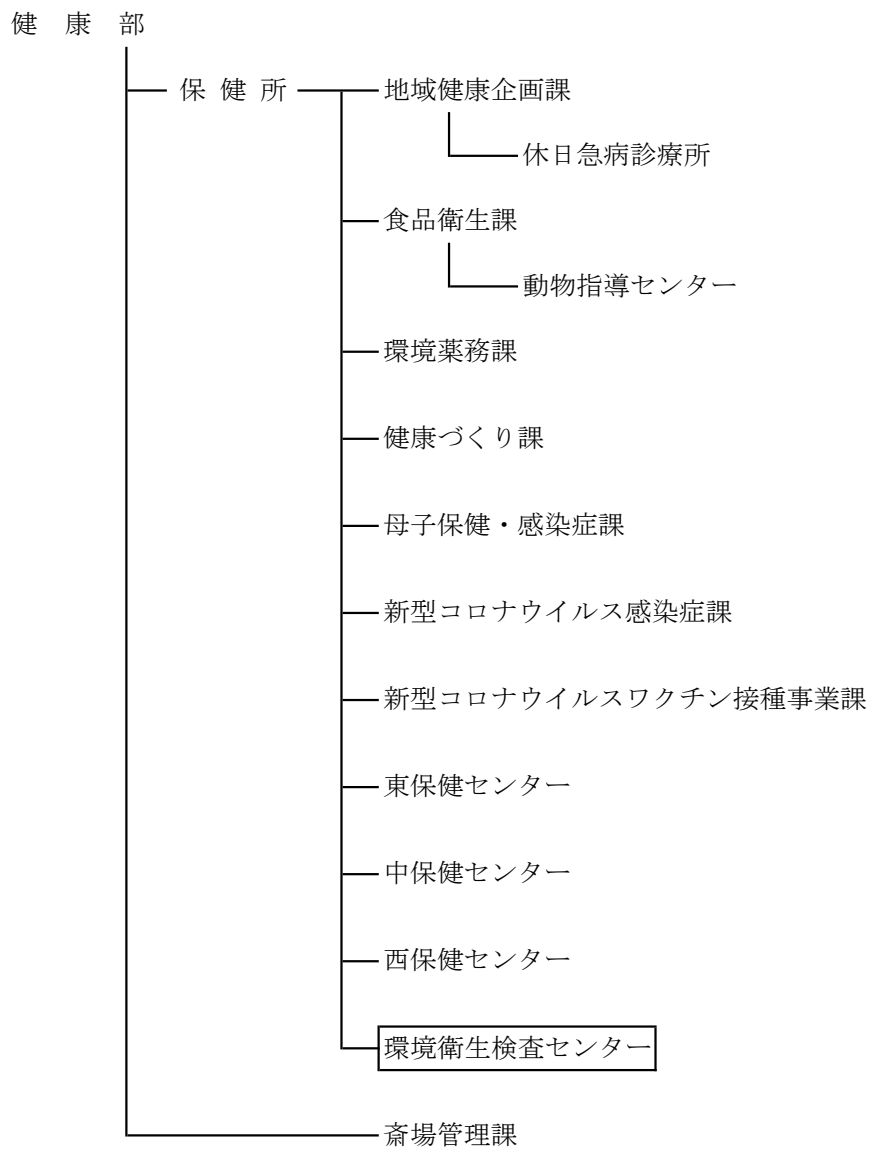


1階平面図

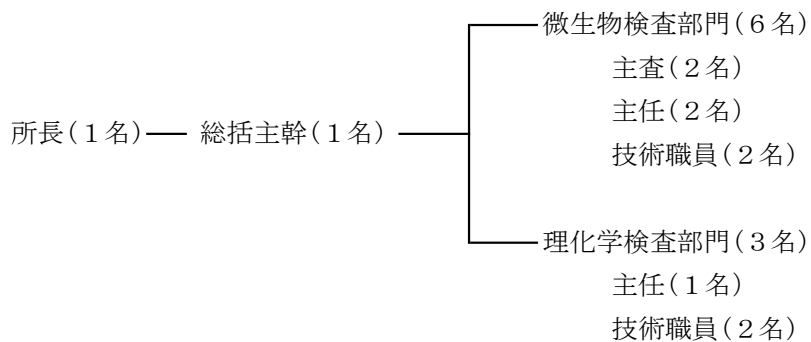


### 3. 機構および業務分担（令和4年4月1日現在）

#### (1)健康部



#### (2)環境衛生検査センター



(3) 事務分掌及び業務概要

①事務分掌

- ・衛生上の試験及び検査に関すること。
- ・公害関係試料の分析に関すること。
- ・環境衛生検査に係る研究機関等との連絡調整に関すること。

②業務概要

ア) 微生物検査部門

- ・結核菌検査
- ・感染症関係検査
- ・食品収去検査（細菌）
- ・食中毒・食品苦情検査
- ・有料依頼検便（赤痢菌、サルモネラ属菌、腸管出血性大腸菌O157）
- ・有料依頼ぎょう虫卵検査

イ) 理化学検査部門

- ・食品収去検査（理化学）
- ・食中毒・食品苦情検査
- ・器具、容器・包装検査
- ・飲用水水質検査（収去検体、有料依頼検体）
- ・プール、浴場水等水質検査（収去検体、有料依頼検体）
- ・家庭用品検査（衣料品等）
- ・貸しおしぼり検査
- ・公共用水域水質調査（分析）
- ・工場排水調査
- ・地下水質調査
- ・異常水質調査
- ・微小粒子性物質成分分析調査

(4) 職員の配置

令和4年4月1日現在

区分	獣医師	技術職員 (薬学)	技術職員 (化学)	検査技師 (再任用)	計
所長		1			1
総括主幹	1				1
微生物検査部門		4	2		6
理化学検査部門		1	1	1	3
計	1	6	3	1	11



4. 予算額及び決算額

(1) 令和4年度歳入

(単位：円)

予算費目		内容	収入
使用料及び手数料	保健衛生使用料	検便・ぎょう虫卵	601,120
	保健衛生手数料	飲用水等検査	270,440
感染症予防事業費等負担金		防疫用備品費、精度管理費	2,725,237
計			3,596,797

(単位：円)

(2) 令和4年度歳出

予算費目			節	予算	支出
衛生費	保健衛生費	環境衛生費	旅費	181,000	80,660
			需用費	142,400	94,799
			役務費	2,163,000	2,108,600
			委託料	9,351,000	9,350,895
			負担金補助金及び交付金	90,000	52,500
計				11,927,400	11,687,454

環境衛生検査センター施設管理費

予算費目			節	予算	支出
衛生費	保健衛生費	環境衛生費	需用費	6,533,600	6,027,825
			役務費	742,000	714,730
			委託料	5,801,000	5,800,080
			備品購入費	0	0
計				13,076,600	12,542,635

環境衛生検査センター整備事業費

予算費目			節	予算	支出
衛生費	保健衛生費	環境衛生費	工事請負費	41,000,000	40,684,600
			備品購入費	4,600,000	3,749,900
計				45,600,000	44,434,500

衛生検査関係事業費

予算費目			節	予算	支出
衛生費	保健衛生費	環境衛生費	需用費	9,962,000	9,830,846
			役務費	203,000	202,400
		予防費	需用費	8,210,000	6,683,295
			役務費	11,000	0
			備品購入費	2,700,000	2,648,800
		計			

公害調査関係事業費

予算費目			節	予算	支出
衛生費	保健衛生費	公害対策費	需用費	3,433,049	3,424,009
			委託料	366,300	366,300
計				3,799,349	3,790,309

合計	95,489,349	91,820,239
----	------------	------------

ただし、職員の人件費は含まない。

5. 主要分析機器

機 器 名	型 式	購入年月日	整備検査室
トリプル四重極ガスクロマトグラフ質量分析装置	Agilent7000C	H25. 9. 30	1F
液体クロマト分析装置	島津LC-20A	H22. 8. 27	第一機器分析室
食品放射能測定システム	EMFジャパン EMF-211	H23. 3. 24	1F 資料天秤室
液体クロマト分析装置	ウォーターズ2695	H20. 6. 30	2F 第二機器分析室
原子吸光分析装置(フレーム)	SOLAAR S4	H16. 3. 31	
イオンクロマト分析装置	サーモフィッシャー Dionex Integrion RFIC	R 1. 9. 12	
分光光度計	島津UV1900i	R5. 3. 24	
TOC分析装置	島津TOC-Vcph	H16. 3. 31	
ガスクロマト質量分析装置	Agilent5973N	H16. 3. 31	2F
分光光度計	日本分光V-550	H10. 1. 22	GC/MS機器測定室
色度濁度光度計	Water Analyzer WA7700	R 3. 12. 21	2F 環境衛生検査室1
超広視野顕微鏡	ニコン LABOPHOTO YUW	S57. 5. 17	2F
安全キャビネット	ダルトン BHC-T700 II A	R 2. 3. 31	環境衛生検査室2
バイオハザード対策用 安全キャビネット	ダルトン NSC-1200 II A2	R 4. 2. 9	2F 検体処理室3
PCR分析装置	TAKARA TP350	H30. 1. 31	3F 微生物検査室
PCR分析装置	TAKARA TP350	H26. 11. 28	
PCR分析装置	TAKARA TP240	H16. 3. 31	
リアルタイムPCR分析装置	ABI7500	H28. 12. 16	
リアルタイムPCR分析装置	ABI7500	H17. 12. 26	
等温遺伝子増幅装置	栄研化学 LoopampEXIA	R 2. 10. 22	

機 器 名	型 式	購入年月日	整備検査室
核酸抽出装置	QIAGEN BioRobotEZ1	H17. 12. 26	3F
バイオハザード対策用 安全キャビネット	ダルトン NSE-1200ⅡA2	R 2. 8. 26	検体処理室1
核酸抽出装置	PSS magLEAD6gc	H30. 1. 31	3F 検体処理室2
核酸抽出装置	PSS magLEAD6gc	H30. 1. 31	
バイオハザード対策用 安全キャビネット	ダルトン NSE-1200ⅡA2	R 4. 2. 9	
ディープフリーザー	日本フリーザー VT78	H22. 11. 30	3F 遺伝子検査室1
卓上バイオクリーンベンチ	CS-1000T	R 4. 2. 9	
PCR分析装置	TAKARA TP600	H16. 3. 31	
ワークブース	ASONE NSV-4	H28. 12. 25	
クリーンベンチ	三商 KVM-7	R 2. 3. 31	
ディープフリーザー	PHC MDF-C8V1	R 2. 3. 31	
ゲル撮影装置	ATTO AE-6932	H26. 11. 28	3F 遺伝子検査室2
ワークブース	ASONE NSV-4	H30. 1. 31	3F 試薬調製室
クリーンベンチ	三商 KVM-7	R 2. 3. 31	
超低温フリーザー	パナソニック MDF-193AT-PJ	H27. 10. 5	3F 感染症検査室
自動蛍光免疫装置	ビオメリュー miniVIDAS	H26. 12. 12	
生物顕微鏡	オリンパスBHSU	S58. 12. 16	
落射蛍光顕微鏡	オリンパス BX51-33-FL D2	H15. 1. 31	
マイクロプレートリーダー	サーモフィッシャー MultiscanFCベーシック	H31. 1. 31	3F 結核検査室
マイクロプレートウォッシャー	サーモフィッシャー Wellwash ELISA用	H31. 1. 31	
バイオハザード対策用 安全キャビネット	ダルトン NSE-1800ⅡA2	R 2. 8. 26	
超広視野顕微鏡	ニコン LABOPHOTO YUW	S56. 5. 29	

## 第2章 試験・検査

1. 令和4年度試験検査実施状況

		依 頼 に よ る も の				依 頼 に よ ら ない も の	計	
		住 民	保 健 所	保 健 所 以 外 の 行 政 機 関	そ の 他 (医 療 機 関、学 校、事 業 所 等)			
結核	分離・同定・検出	0	2	0	0	0	2	
	核 酸 検 査	0	0	0	0	0	0	
	化学療法剤に対する耐性検査	0	0	0	0	0	0	
性病	梅 毒	0	0	0	0	0	0	
	そ の 他	0	0	0	0	0	0	
ウイルス・リケッチア等検査	分離・同定・検出	ウ イ ル ス	0	723	0	0	46	769
		リ ケ ッ チ ア	0	0	0	0	0	0
		クラミジア・マイコプラズマ	0	0	0	0	0	0
	抗体検査	ウ イ ル ス	0	0	0	0	0	0
		リ ケ ッ チ ア	0	0	0	0	0	0
クラミジア・マイコプラズマ	0	0	0	0	0	0		
病原微生物の動物試験		0	0	0	0	0	0	
原虫・寄生虫等	原 虫	0	0	0	0	0	0	
	寄 生 虫	0	0	0	0	0	0	
	そ 族・節足動物	0	0	0	0	0	0	
	真 菌・その他	0	0	0	0	0	0	
食中毒	病原微生物検査	細 菌	0	17	0	0	17	
		ウ イ ル ス	0	14	0	0	14	
		核 酸 検 査	0	19	0	0	19	
	理化学的検査	0	0	0	0	0		
	動物を用いる検査	0	0	0	0	0		
そ の 他	0	0	0	0	0			
臨床検査	血液検査(血液一般検査)	0	0	0	0	0	0	
	血清等検査	エイズ(HIV)検査	0	20	0	0	20	
		HBs抗原、抗体検査	0	0	0	0	0	
		そ の 他	0	0	0	0	0	
	生化学検査	先天性代謝異常検査	0	0	0	0	0	
		そ の 他	0	0	0	0	0	
	尿検査	尿 一 般	0	0	0	0	0	
		神経芽細胞腫	0	0	0	0	0	
		そ の 他	0	0	0	0	0	
	アレルギー検査(抗原検査・抗体検査)	0	0	0	0	0		
そ の 他	0	97	0	0	1	98		
食品等検査	微生物学的検査	0	103	0	0	16	119	
	理化学的検査(残留農薬・食品添加物等)	0	52	0	0	31	83	
	動物を用いる検査	0	0	0	0	0	0	
	そ の 他	0	0	0	0	0	0	
(上記以外)細菌検査	分離・同定・検出	221	48	0	0	15	284	
	核 酸 検 査	0	13	0	0	11	24	
	抗 体 検 査	0	0	0	0	0	0	
医薬品・家庭用品等検査	化学療法剤に対する耐性検査	0	0	0	0	0	0	
	医 薬 品	0	0	0	0	0	0	
	医 薬 部 外 品	0	0	0	0	0	0	
	化 粧 品	0	0	0	0	0	0	
	医 療 機 器	0	0	0	0	0	0	
	毒 劇 物	0	0	0	0	0	0	
	家 庭 用 品	0	40	0	0	0	40	
	そ の 他	0	0	0	0	0	0	
栄養関係検査		0	0	0	0	0	0	
水道等水質検査	水道原水	細菌学的検査	0	0	0	0	0	
		理化学的検査	0	0	0	0	0	
		生物学的検査	0	0	0	0	0	
	飲用水	細菌学的検査	16	18	0	0	34	
		理化学的検査	16	18	0	0	130	164
	利用水等(プール水等を含む)	細菌学的検査	0	86	0	0	4	90
理化学的検査	0	61	0	0	0	61		
廃棄物関係検査	一般廃棄物	細菌学的検査	0	0	0	0	0	
		理化学的検査	0	0	0	0	0	
		生物学的検査	0	0	0	0	0	
	産業廃棄物	細菌学的検査	0	0	0	0	0	
		理化学的検査	0	0	0	0	0	
		生物学的検査	0	0	0	0	0	
環境・公害関係検査	大気検査	SO <sub>2</sub> ・NO <sub>x</sub> ・OX等	0	0	0	0	0	
		浮遊粒子状物質	0	0	0	0	0	
		降 下 煤 塵	0	0	0	0	0	
		有害化学物質・重金属等	0	0	0	0	0	
		酸 性 雨	0	0	0	0	0	
	そ の 他	0	0	64	0	40	104	
	水質検査	公共用水域	0	0	95	0	101	196
		工場・事業場排水	0	0	33	0	45	78
		浄化槽放流水	0	0	0	0	0	0
		そ の 他	0	0	0	0	0	0
	騒音・振動	0	0	0	0	0	0	
	悪臭検査	0	0	0	0	0	0	
	土壌・底質検査	0	0	0	0	0	0	
環境生物検査	藻類・プランクトン・魚介類	0	0	0	0	0	0	
	そ の 他	0	0	0	0	0	0	
一般室内環境	0	0	0	0	0	0		
そ の 他	0	0	0	0	0	0		
放射能	環境試料(雨水・空気・土壌等)	0	0	0	0	0	0	
	食 品	0	25	0	20	0	45	
	そ の 他	0	0	0	0	0	0	
温泉(鉱泉)泉質検査	0	0	0	0	0	0		
そ の 他	0	0	0	0	0	0		
計		253	1,356	192	20	440	2,261	

## 2. 微生物検査業務

市民等一般から直接依頼を受ける腸内細菌及びぎょう虫卵検査、保健所からの依頼による感染症検査、結核予防事業に関する検査、食品及び食中毒・苦情検査を実施している。また、検査精度の確認のため、食品衛生法及び感染症法に基づく外部精度管理調査への参加、及び内部精度管理を実施している。

### (1) 一般依頼検査

#### ①腸内細菌検査

市民等一般から直接依頼を受け、便を対象とした赤痢菌、サルモネラ属菌（チフス菌及びパラチフス A 菌を含む）及び腸管出血性大腸菌 0157 等の検査を実施している。令和 4 年度は 221 検体、691 項目の検査を実施し、すべて陰性であった。

#### ②ぎょう虫卵検査

市民等一般から直接依頼を受け、ぎょう虫卵検査を実施している。令和 4 年度の依頼検査は無かった。

### (2) 行政依頼検査

#### ①感染症検査

保健所母子保健・感染症課及び新型コロナウイルス感染症課からの依頼により、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき、赤痢菌、チフス菌、パラチフス A 菌、コレラ菌、腸管出血性大腸菌及びノロウイルス、新型コロナウイルス等の検査を実施している。

また、エイズ予防事業として、保健所で HIV 抗原抗体検査(イムノクロマト法)を平日夜間に年 2 回実施している。

令和 4 年度の検査項目及び検体数は表 2-1 のとおりであった。

腸管出血性大腸菌の検査では、0157(VT1, VT2)が 4 事例 5 検体、ノロウイルスの検査では、Genogroup II (G II)の遺伝子群が 1 事例 4 検体から検出された。

表 2-1 感染症検査の検査項目及び検体数  
(陽性検体数)

検査項目	検体数	菌株再掲
腸管出血性大腸菌	40(5)	8(8)
ノロウイルス	5(4)	0(0)
新型コロナウイルス	718(135)	0(0)
HIV 抗原抗体検査	20(0)	0(0)
計	783(144)	8(8)

#### ②結核予防事業に関する検査

結核予防事業の一環として、保健所母子保健・感染症課からの依頼により、喀痰を対象とした抗酸菌の塗抹及び培養検査を実施している。令和 4 年度の検体数は 2 検体で、いずれも陰性であった。

また、結核患者の接触者健診としてクオンティフェロン検査を実施している。令和 4 年度の検体数は 97 検体で、7 検体が陽性であった。

#### ③食品収去検査

保健所食品衛生課からの依頼により、「東大阪市食品衛生監視指導計画」に基づき、食品の細菌検査を実施している。令和 4 年度の検体別検査項目及び検体数は、規格基準等がある検体については表 2-2、規格基準等のない検体については表 2-3 のとおりで、103 検体、297 項目であった。規格基準等違反事例は無かった。

表 2-2 食品収去検査の検体別検査項目及び検体数（規格基準等あり）

検体名 検査項目名	牛乳、 加工乳等	アイスクリーム類	乳飲料	生食用鮮魚介類	冷凍食品	食肉製品	容器包装詰加圧加熱殺菌食品	計
検体数	2	3	3	3	5	2	2	20
細菌数	2	3	3	3	5			16
大腸菌群	2	3	3			1		9
低温細菌数	2							2
腸炎ビブリオ最確数				3				3
E.coli				3		1		4
黄色ブドウ球菌						1		1
サルモネラ属菌						1		1
クロストリジウム属菌						1		1
恒温試験							2	2
細菌試験							2	2
計	6	6	6	9	5	5	4	41

表 2-3 食品収去検査の検体別検査項目及び検体数（規格基準等なし）

検体名 検査項目名	夏期食品	弁当・調理パン等	和洋生菓子	計
検体数	20	55	8	83
細菌数	20	55	8	83
大腸菌群			8	8
黄色ブドウ球菌	20	55	8	83
サルモネラ属菌	1	2		3
セレウス菌	1	3		4
E.coli	20	55		75
計	62	170	24	256

④食中毒・苦情検査

食中毒及び苦情に伴う保健所食品衛生課からの依頼により、患者や従業員の便、施設のふき取り及び食品の検査を実施している。令和4年度の検体種類別検査項目及び検体数は表2-4のとおりで、19検体、232項目であった。ふき取り及び食品の依頼検査は無かった。

各事例の概要は表2-5のとおりである。

表2-4 食中毒・苦情検査の検体種類別検査項目及び検体数（陽性検体数）

検査項目名	検体種類	便
検体数		19
サルモネラ属菌		17
下痢原性大腸菌		17(7)
黄色ブドウ球菌		17(6)
腸炎ビブリオ		17
ナグビブリオ		11
ビブリオ ミミカス		11
ビブリオ フルビアリス		11
プレシオモナス シゲロイデス		11
エロモナス ハイドロフィラ/ソブリア		11
セレウス菌		17(1)
ウェルシュ菌		17(2)
エルシニア エンテロコリチカ		11
カンピロバクター ジェジュニ/コリ		11(4)
赤痢菌		11
コレラ菌		11
腸管出血性大腸菌		17
ノロウイルス		14(5)
計		232(25)



表 2-5 食中毒・苦情検査等事例

No.	受付年月	検体数	検査項目	結果：陽性検体数
1	R4. 6	1	食中毒菌	下痢原性大腸菌 OUT(astA 遺伝子検出)：1
				カンピロバクター ジェジュニ：1
2	R4. 6	6	食中毒菌・ノロウイルス	下痢原性大腸菌 045(eae 遺伝子検出)：4
				黄色ブドウ球菌：1
				ウエルシュ菌：1
3	R4. 9	1	食中毒菌・ノロウイルス	カンピロバクター ジェジュニ：1
4	R4. 9	1	食中毒菌	下痢原性大腸菌 0119(astA 遺伝子検出)：1
				カンピロバクター ジェジュニ：1
				黄色ブドウ球菌：1
5	R4. 10	1	食中毒菌	カンピロバクター ジェジュニ：1
				黄色ブドウ球菌：1
				セレウス菌：1
6	R5. 3	9	食中毒菌・ノロウイルス	ノロウイルス GⅡ：5
				下痢原性大腸菌 OUT(afaD 遺伝子検出)：1
				黄色ブドウ球菌：3
				ウエルシュ菌：1

### (3) 精度管理等

#### ①食品収去検査

一般財団法人食品薬品安全センターが実施する食品衛生外部精度管理調査に以下の3項目参加した。

- ・E. coli 検査 (加熱食肉製品(加熱後包装))
- ・一般細菌数測定検査 (氷菓)
- ・黄色ブドウ球菌検査 (加熱食肉製品(加熱後包装))

#### ②感染症検査

特定非営利活動法人結核感染診断研究会が実施する IGRA 検査外部精度管理に以下の1項目参加した。

- ・IGRA 検査(QFT 検査)

厚生労働省が実施する外部精度管理事業に以下の2項目について参加した。

- ・新型コロナウイルスの核酸検出検査
- ・コレラ菌の同定検査

また、感染症検査を行う際の内部精度管理として 59 項目の試験を実施した。

### 3. 食品理化学検査業務

保健所食品衛生課の依頼を受け、収去検体及び苦情検体の理化学検査を実施している。収去検査に当たっては、GLP（食品衛生検査施設の業務管理基準）に基づき添加回収試験を行い、検査の信頼性を検証している。併せて（一財）食品薬品安全センターが実施する食品衛生外部精度管理調査に参加し、信頼性の確保に努めている。また、厚生労働省の通知を受け、検査実施標準作業書の改定を実施している。

#### （1）収去検査

令和4年度東大阪市食品衛生監視指導計画に基づき、保健所食品衛生課が収去した検体について毎月、分析項目を決めて検査を実施した。受付検体数は52検体で1,708項目の検査を実施した。

##### ①食品中の食品添加物検査

今年度も新型コロナウイルスに関する応援業務が増加し、下記の39検体、197項目の検査に留まった（表3-1）。全て規格基準に適合していた。

表3-1 食品添加物検査

検査項目		検体数	項目数
甘味料	サッカリンナトリウム	5	5
保存料	ソルビン酸	9	9
	安息香酸		9
	パラオキシ安息香酸エステル類		9
漂白剤	二酸化硫黄	5	5
合成着色料	指定着色料12種（定性）	10	120
	キノリンイエロー（定性）		10
	パテントブルー（定性）		10
	アズルビン（定性）		10
発色剤	亜硝酸根	10	10
計		39	197

##### ②牛乳、加工乳の検査

今年度は1回の規格検査を実施した。規格検査の実施検体数は2検体であった（表3-2）。すべて規格基準に適合していた。

表3-2 牛乳、加工乳の検査

検査項目		検体数	項目数
規格検査	比重	2	2
	乳脂肪分		2
	無脂乳固形分		2
	酸度		2
計		2	8

### ③残留農薬検査

野菜類・果物類 11 検体については野菜セット項目または果実セット項目より妥当性評価に合格した農薬の検査を実施した（表 3-3）。すべて規格基準に適合していた。

表 3-3 残留農薬の検査

	検体数	項目数
野菜類（加工食品を含む）	10	1,381
果実類（加工食品を含む）	1	122
計	11	1,503

残留農薬検査項目一覧 (定量限界 0.01 mg/kg)

野菜セット

ブチレート	アメトリン	プロシミドン
イソプロカルブ	プロメトリン	トリアジメノール I
テクナゼン	ピリミホスメチル	メトプレン II
フェノブカルブ	テルブトリン	トリアジメノール II
エトプロホス	フェニトロチオン	ブロモホスエチル
エタルフルラリン	メチオカルブ	ジクロシメット II
クロルプロファム	エトフメセート	プロパホス
トリフルラリン	エスプロカルブ	ピリフェノックス (E)
ベンフルラリン	マラチオン	パクロブトラゾール
カズサホス	メトラクロール	ジスルホトンスルホン
ダイアレート I	クロルピリホス	フェノチオカルブ
ホレート	チオベンカルブ	ブタミホス
ダイアレート II	クロルタールジメチル	ナプロパミド
チオメトン	フェンチオン	フェナミホス
クロマゾン	ジエトフェンカルブ	ヘキサコナゾール
クロルブファム	フェンプロピモルフ	クロルフェンソン
プロパジン	パラチオン	フルトラニル
テルブホス	イソフェンホスオキソン	プロチオホス
ダイアジノン	トリアジメホン	メトミノストロビン (E)
プロピザミド	テトラコナゾール	イソプロチオラン
ジスルホトン	ニトロタールイソプロピル	プロフェノホス
プロヒドロジャスモン	ジフェナミド	ウニコナゾール p
イサゾホス	ホスチアゼート	ミクロブタニル
テフルトリン	ペンディメタリン	ブプロフェジン
トリアレート	クロルフェンビンホス ( $\alpha$ ) (E)	フラムプロップメチル
イプロベンホス	ペンコナゾール	フルシラゾール
ジクロフェンチオン	ジメタメトリン	オキシフルオルフェン
ベンフレセート	イソフェンホス	クレソキシムメチル
ジメテナミド	ピリフェノックス (Z)	アザコナゾール
ブロモブチド	フィプロニル	クロルフェナピル
プロパニル	クロルフェンビンホス ( $\beta$ ) (Z)	イソキサチオン
クロルピリホスメチル	メカルバム	フェノキサニル
ビンクロゾリン	フェントエート	ペルタン
トルクロホスメチル	キナルホス	シプロコナゾール
メタラキシル	ジクロシメット I	クロロベンジレート
フェンクロルホス	ジメピペレート	ピリミノバックメチル (Z)

野菜セットつづき

フェンスルホチオン	カフェンストロール
エチオン	シフルトリン
フルアクリピリム	フルシトリネートⅠ
メプロニル	シペルメトリン
トリアゾホス	フルシトリネートⅡ
ベナラキシル	フェンバレレートⅠ
エディフェンホス	フルミオキサジン
プロピコナゾールⅠ	フルバリネート-tau-Ⅰ
トリフロキシストロビン	フルバリネート-tau-Ⅱ
ピリミノバックメチル(E)	フェンバレレートⅡ
プロピコナゾールⅡ	ジフェノコナゾール
プロパルギット	トルフェンピラド
ピペロニルブトキシド	
エポキシコナゾール	
メフェンピルジエチル	
ピリブチカルブ	
ピリダフェンチオン	
EPN	
ブロモプロピレート	
ピペロホス	
エトキサゾール	
メトキシクロール	
フェンプロパトリン	
テブフェンピラド	
ビフェノックス	
フェノトリンⅠ	
フェノトリンⅡ	
シハロトリン (γ)	
ピリプロキシフェン	
メフェナセット	
シハロトリン (λ)	
フェナリモル	
ペルメトリン (trans)	
ペルメトリン (cis)	
ピリダベン	
フルキンコナゾール	

果実セット

ブチレート	アラクロール	メトプレンII
イソプロカルブ	メタラキシル	ブロモホスエチル
フェノブカルブ	フェンクロルホス	メチダチオン
プロパクロール	アメトリン	クロルベンシド
エトプロホス	プロメトリン	キノメチオネート
クロルプロファム	ピリミホスメチル	プロパホス
トリフルラリン	テルブトリン	テトラクロルビンホス
ベンフルラリン	フェニトロチオン	ブタクロール
カズサホス	エトフメセート	ジスルホトンスルホン
ダイアレートI	エスプロカルブ	フェノチオカルブ
ホレート	ラチオン	ブタミホス
ダイアレートII	メトラクロール	ナプロパミド
ジクロラン	クロルピリホス	フェナミホス
アトラジン	チオベンカルブ	ヘキサコナゾール
クロマゾン	クロルタールジメチル	クロルフェンソン
クロルブファム	フェンチオン	プロチオホス
プロパジン	ジエトフェンカルブ	メトミノストロビン(E)
テルブホス	フェンプロピモルフ	プレチラクロール
シアノホス	パラチオン	イソプロチオラン
ダイアジノン	イソフェンホスオキソン	プロフェノホス
プロピザミド	トリアジメホン	オキサジアゾン
ピリメタニル	ニトロタールイソプロピル	ブプロフェジン
プロヒドロジャスモン	ブロモホス	フラムプロップメチル
テフルトリン	ジフェナミド	オキシフルオルフェン
トリアレート	ホスチアゼート	クレソキシムメチル
イプロベンホス	ペンディメタリン	クロルフェナピル
ベノキサコール	クロルフェンビンホス( $\alpha$ )(E)	イソキサチオン
ジクロフェンチオン	ペンコナゾール	フェノキサニル
ベンフレセート	ジメタメトリン	ペルタン
ジメテナミド	イソフェンホス	クロロベンジレート
ブロモブチド	クロルフェンビンホス( $\beta$ )(Z)	ピリミノバックメチル(Z)
アセトクロール	メカルバム	エチオン
クロルピリホスメチル	フェントエート	フルアクリピリム
ビンクロゾリン	キナルホス	メプロニル
トルクロホスメチル	ジメピペレート	トリアゾホス
パラチオンメチル	プロシミドン	ベナラキシル

果実セットつづき

カルフェントラズンエチル	ピラクロホス
エディフェンホス	スピロジクロフェン
プロピコナゾール I	ペルメトリン (trans)
キノキシフェン	ペルメトリン (cis)
エンドスルファンサルフェート	ピリダベン
トリフロキシストロビン	フルキンコナゾール
ピリミノバックメチル(E)	ジオキサチオン
プロピコナゾール II	カフェンストロール
テニルクロール	シフルトリン
ジフルフェニカン	ハルフェンプロックス
プロパルギット	フルシトリネート I
ピペロニルブトキシド	シペルメトリン
エポキシコナゾール	フルシトリネート II
メフェンピルジエチル	ピリミジフェン
ピリブチカルブ	フェンバレレート I
ピリダフェンチオン	フルバリネート-tau- I
ビフェントリン	フルバリネート-tau- II
EPN	フェンバレレート II
ブロモプロピレート	ジフェノコナゾール
ピペロホス	トルフェンピラド
ピコリナフェン	シニドンエチル
エトキサゾール	
メトキシクロール	
フェンプロパトリン	
テブフェンピラド	
アニロホス	
ビフェノックス	
フェノトリン I	
テトラジホン	
フェノトリン II	
ホサロン	
シハロトリン ( $\gamma$ )	
ピリプロキシフェン	
メフェナセット	
シハロトリン ( $\lambda$ )	
ピラゾホス	

(2) 苦情検査

今年度は苦情検査の実施が無かった。

(3) 精度管理等

収去検査ならびに分析精度管理を実施するにあたり、添加回収試験を 25 検体 45 項目実施した。また、3 回の外部精度管理調査に参加し 11 検体 32 項目の検査を実施した。

(4) 放射線検査

放射線検査については学校給食及び食品 45 検体 90 項目の検査を実施した（表 3－4）。すべて規格基準に適合していた。

表 3－4 放射線検査

検査項目	項目数
放射性セシウム Cs <sub>134</sub>	45
放射性セシウム Cs <sub>137</sub>	45
計	90

(5) 妥当性評価等

今年度は妥当性評価等の実施が無かった。



#### 4. 環境衛生検査業務

保健所環境業務課から行政依頼を受け、飲用水、遊泳場水及び浴場水の水質検査、貸おしぼり検査及び家庭用品検査並びに市民等から直接依頼を受け、飲用水等の水質検査を実施した。

##### (1) 水質検査

###### ① 飲用水等

保健所環境業務課から行政依頼及び市民等から直接依頼を受け、水道法に基づく水質基準に関する省令(平成 15 年厚生労働省令第 101 号)に定める 51 項目の内、表 4-1 に挙げる項目について飲用水等の検査を実施した。

この他に行政依頼において湧水を対象として、クリプトスポリジウム指標菌(大腸菌及び嫌気性芽胞菌)について検査を実施した。

また市民等からの直接依頼において、依頼があった場合に遊離残留塩素についての検査を実施した。

表 4-1 飲用水等の検査において実施した項目

1	一般細菌
2	大腸菌
3	硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素
4	鉄及びその化合物
5	マンガン及びその化合物
6	塩化物イオン
7	有機物(全有機炭素(TOC)の量)
8	pH 値
9	味
10	臭気
11	色度
12	濁度

今年度を実施した検査総数は 34 検体 407 項目で、依頼先は行政依頼が 18 検体 218 項目、市民等からの直接依頼が 16 検体 189 項目であった。

依頼先別及び種類別の検体数及び項目数は表 4-2 のとおりであった。

行政依頼の検査では、2 検体 2 項目が不適であった。また、市民等からの直接依頼では、4 検体 11 項目が不適であった。

表 4-2 依頼先別及び種類別の検体数及び項目数(不適数)

依頼先 検体の種類	水道水		井戸水		湧水等その他		合計	
	検体数	項目数	検体数	項目数	検体数	項目数	検体数	項目数
行政依頼	16(1)	192(1)	0(0)	0(0)	2(1)	26(1)	18(2)	218(2)
直接依頼	11(0)	134(0)	4(3)	44(6)	1(1)	11(5)	16(4)	189(11)
合計	27(1)	326(1)	4(3)	44(6)	3(2)	37(6)	34(6)	407(13)

②浴場水

保健所環境薬務課からの行政依頼を受け、東大阪市公衆浴場法施行条例及び同施行細則に定める水質基準に基づく検査項目(表 4-3)について浴槽水の検査を実施した。

表 4-3 浴場水の検査において実施した項目

	浴槽水	上り用湯等
濁度	○	○
過マンガン酸カリウム消費量	○	-
大腸菌群数	○	-

今年度は 62 検体 169 項目について検査を実施しており、表 4-4 のとおりであった。また、10 検体 11 項目が不適であった。

表 4-4 浴場水の検体数及び項目数(不適数)

検体の種類	浴槽水	上り用湯等
検体数	58(8)	4(2)
不適率(%)	13.8	50.0
検査項目	項目数	
濁度	53(0)	4(2)
過マンガン酸カリウム消費量	57(7)	-
大腸菌群数	55(2)	-
合計	165(9)	4(2)

### ③レジオネラ属菌

保健所環境薬務課からの行政依頼を受け、浴場水検査と並行して東大阪市公衆浴場法施行条例及び同施行細則並びに大阪府遊泳場条例及び同施行規則に定める水質基準に基づき、レジオネラ属菌について検査を実施した。

今年度は年間計画に基づき、全 11 施設 40 検体について実施し、4 施設 7 検体が不適であった(表 4-5)。

検出された検体の種類、水温及び残留塩素濃度、並びに検出された菌種及び血清群は表 4-6 のとおりであった。

表 4-5 レジオネラ属菌検査を実施した施設数及び検体数(不適数)

検体の種類	浴槽水	採暖槽水
施設数	11	2
検体数	38(5)	2(2)
不適率(%)	13.2	100.0

表 4-6 レジオネラ属菌が検出された検体の種類、水温、残留塩素濃度、並びに菌種及び血清群

採水月	検体の種類		水温(°C)	残留塩素濃度(mg/L)	検出された菌種及び血清群
12月	浴槽水	薬湯	38.0	-※	<i>Legionella pneumophila</i> 8群
	浴槽水	白湯	41.5	0.6	<i>Legionella pneumophila</i> 1群 <i>Legionella pneumophila</i> 5群
	採暖槽水	-	37.0	0.4	<i>Legionella pneumophila</i> 1群 <i>Legionella pneumophila</i> 5群
	浴槽水	白湯	41.0	1.0	<i>Legionella pneumophila</i> 5群
	浴槽水	白湯	18.5	1.0	<i>Legionella pneumophila</i> 5群
	採暖槽水	-	36.0	2.0以上	<i>Legionella pneumophila</i> 5群
2月	浴槽水	白湯	41.0	0.1未満	<i>Legionella pneumophila</i> 4・5群 <i>Legionella pneumophila</i> 5群 <i>Legionella pneumophila</i> 6群 <i>Legionella pneumophila</i> 8群

※検体の色が濃いため測定できなかった。

また、年間計画に基づく検査とは別にレジオネラ属菌による感染症の発生に伴い関連する浴場水等についての検査も実施した。1施設 30 検体について検査し、8 検体が不適であった。

### (3)家庭用品検査

保健所環境薬務課からの行政依頼を受け、有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律に基づき、生後24ヶ月以下の乳幼児用繊維製品についてホルムアルデヒド検査を実施した。

今年度を実施した検査総数は40検体140項目で、不適検体は無かった。

### (4)精度管理等

外部精度管理及び内部精度管理は134検体274項目を実施した。

#### ① 外部精度管理

レジオネラ属菌に関して、「厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理対策総合研究事業)レジオネラ検査の標準化及び消毒等に係る公衆浴場等における衛生管理手法に関する研究」に基づいて実施された、レジオネラ属菌検査精度管理サーベイに参加し、1検体1項目を実施した。

#### ② 内部精度管理

今年度は飲用水等に関する内部精度管理として、イオン成分(硝酸態窒素、亜硝酸態窒素、フッ素及びその化合物、塩化物イオン)、鉄及びその化合物、並びにマンガン及びその化合物、有機物(全有機炭素(TOC)の量)について、130検体270項目を実施した。

またレジオネラ属菌検査を実施する際の内部精度管理として3検体3項目を実施した。

## 5. 公害調査業務

環境部公害対策課(以下、公害対策課)から依頼を受け、環境水質(公共用水域、地下水及び工場排水)及び環境大気(PM2.5)について有害化学物質汚染状況調査及び環境調査を実施した。

調査は環境衛生検査センター及び公害対策課が共同して業務を実施し、サンプリング、検査及び報告の一部は公害対策課より外部委託されている(表5-1)。

表5-1 調査の分担

	公害対策課	環境衛生検査センター	外部委託業者
事業計画	○	○	
予算経理	○		
サンプリング	○	○	○
検査		○	○
報告	○	○	○

令和4年度、環境衛生検査センターで実施した検査総数は、環境水質調査について273検体1,889項目、環境大気調査について104検体672項目であった(表5-2)。

表5-2 公害調査の内容、検体数及び項目数

	業務名		検体数	項目数
環境水質調査	公共用水域 調査	環境基準監視調査	42	756
		支川有害物質調査	48	432
	工場排水等調査		33	211
	地下水水質調査		5	150
	精度管理		146	343
	小計		273	1,889
環境大気調査	微小粒子状物質(PM2.5) 成分分析調査		64	512
	精度管理		40	160
	小計		104	672
合計			377	2,561

(1) 環境水質調査業務

① 公共用水域調査

ア) 環境基準監視調査

水質汚濁防止法第 16 条の規定により大阪府域の公共用水域の水質を常時監視するために定められた「公共用水域及び地下水の水質測定計画」に基づき、5月、8月、11月、2月の4回は 10 地点(環境基準点 1 地点、準基準点 3 地点、市独自の監視地点 6 地点)で、7月、1月の2回は環境基準点 1 地点で調査を実施した。

令和 4 年度、環境衛生検査センターでは 22 検査項目について、42 検体 756 項目の検査を実施し、環境基準を超えるものは無かった(表 5 - 3)。

表 5 - 3 環境基準監視調査における検査項目及び項目数

	検査項目	項目数		検査項目	項目数
健康項目	全シアン	40	要監視 項目	イソキサチオン	30
	ふっ素	40		ダイアジノン	30
	シマジン	40		フェニトロチオン	30
	チオベンカルブ	40		イソプロチオラン	30
	硝酸性窒素 及び亜硝酸性窒素	42		クロロタロニル	30
特殊項目	溶解性鉄	40		プロピザミド	30
	溶解性マンガン	40		EPN	30
	亜硝酸性窒素	42		ジクロロボス	30
	硝酸性窒素	42		フェノブカルブ	30
	アンモニア性窒素	40		イプロベンホス	30
			クロルニトロフェン	30	
			その他	塩素イオン	20
				合計	756

イ) 支川有害物質調査

工場及び事業場等の排水が河川水に与える影響を監視するため、河川に流入する前の支川及び水路について、年 6 回(5月、6月、7月、10月、1月、3月)、8 地点で調査を実施した。

令和 4 年度、環境衛生検査センターでは環境基本法に基づき環境基準が定められた項目を含む 9 検査項目について、48 検体 432 項目の検査を実施し、環境基準を超えるものは無かった(表 5 - 4)。

表 5 - 4 支川有害物質調査の検査項目及び項目数

	検査項目	項目数
有害物質 ／健康項目	シアン化合物	48
	ふっ素及びその化合物	48
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	48
	亜硝酸性窒素	48
	硝酸性窒素	48
	アンモニア性窒素	48
特殊項目	pH	48
	溶解性鉄	48
	溶解性マンガン	48
合計		432

②工場排水等調査

水質汚濁防止法に基づき、工場及び事業場等 15 施設の排水の調査を実施した。

令和 4 年度、環境衛生検査センターでは、排水基準を定められた項目を含む 11 検査項目について、33 検体 211 項目の検査を実施し、排水基準を超えるものは無かった(表 5 - 5)。

表 5 - 5 工場排水等調査の検査項目及び項目数

	検査項目名	項目数
有害物質 ／健康項目	シアン化合物	9
	ふっ素及びその化合物	17
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	17
	亜硝酸性窒素	17
	硝酸性窒素	17
	アンモニア性窒素	17
生活環境項目	pH	33
	生物学的酸素要求量(BOD)	21
	浮遊物質(SS)	21
	全窒素	21
	全りん	21
合計		211

③地下水水質調査

水質汚濁防止法第 16 条の規定により大阪府域の公共用水域の水質を常時監視するために定められた「公共用水域及び地下水の水質測定計画」に基づき、5 地点で調査を実施した。

令和 4 年度、環境衛生検査センターでは 30 検査項目について、5 検体 150 項目について検査を実施し、環境基準を超えるものは無かった(表 5 - 6)。

表 5 - 6 地下水水質調査

	項目名	項目数		項目名	項目数	
有害物質 /健康項目	シアン化合物	5	要監視 項目	イソキサチオン	5	
	シマジン	5		ダイアジノン	5	
	チオベンカルブ	5		フェニトロチオン	5	
	ふっ素及びその化合物	5		イソプロチオラン	5	
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	5		クロロタロニル	5	
	亜硝酸性窒素	5		プロピザミド	5	
	硝酸性窒素	5		EPN	5	
	アンモニア性窒素	5		クロルニトロフェン	5	
生活環境 項目	pH	5		ジクロロボス	5	
	溶解性鉄	5		フェノブカルブ	5	
	溶解性マンガン	5		イプロベンホス	5	
				その他	塩素イオン	5
					臭素イオン	5
					硫酸イオン	5
					りん酸イオン	5
			ナトリウムイオン		5	
			カリウムイオン		5	
			マグネシウムイオン		5	
			カルシウムイオン		5	
			合計	150		



(2) 環境大気調査業務（微小粒子状物質(PM2.5)成分分析調査）

「微小粒子状物質(PM2.5)の成分分析ガイドライン」(平成23年7月29日環水大大発110729001号)に基づき、環境衛生検査センター局で年4回、8検査項目について調査を実施し、環境衛生検査センターでは64検体512項目の検査を実施した(表5-9)。

平成25年度より開始した本調査は、PM2.5の成分分析を実施することで、発生源の特定や発生源別寄与割合を明らかにするもので、環境省が指定する期間(コア期間)を中心に全国一斉に調査を実施している。この調査には広範囲で面的な解析を実施することが必要であるため、大阪府が府下の調査結果を取りまとめた上、公表している。

表5-9 微小粒子状物質(PM2.5)成分分析調査における検査項目と項目数

検査項目名	項目数	検査項目名	項目数
塩素イオン	64	ナトリウムイオン	64
硝酸イオン	64	アンモニウムイオン	64
硫酸イオン	64	カリウムイオン	64
		マグネシウムイオン	64
		カルシウムイオン	64
		合計	512

(3) 精度管理

① 外部精度管理

令和4年度は環境省の「環境測定分析統一精度管理調査」に参加し、模擬水質試料として全りんについて1検体3項目を実施した。

② 内部精度管理

令和4年度は、環境水質検査に関して145検体343項目、環境大気検査に関して40検体160項目を実施した。

### 第3章 その他

## 1. 会議・研修等への参加

実施年月日	内 容	開催地	参加人数
R4. 4. 14	タカラバイオ リアルタイムPCRの基礎～発現解析のコツ～	(web)	2
R4. 4. 20	ThermoFisherScientific もっと基礎からわかるリアルタイムPCR	(web)	2
R4. 5. 27	令和4年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部第1回総会	(web)	1
R4. 6. 3	令和4年度地方衛生研究所全国協議会臨時総会	(web)	1
R4. 6. 24	令和4年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部役員会	(web)	1
R4. 6. 27	地方衛生研究所全国協議会近畿支部ウイルス部会役員会	(web)	1
R4. 6. 30～ R4. 7. 1	衛生微生物技術協議会第42回研究会	(web)	6
R4. 7. 7	DionexIC技術説明会	大阪市	1
R4. 7. 20	令和4年度 地方衛生研究所全国協議会近畿支部細菌部会役員会	(web)	1
R4. 7. 22	令和4年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部理化学部会役員会	(web)	1
R4. 7. 26	令和4年度地方保健総合推進事業 第1回近畿ブロック会議	(web)	1
R4. 7. 26	令和4年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部第2回総会	(web)	2
R4. 7. 29	大阪府水道水質検査外部精度管理結果並びに水道水中微量有機物質調査に係る報告会	大阪市	1
R4. 9. 2	分析技術勉強会	(web)	1
R4. 9. 8～ R4. 9. 9	令和4年度検査機関に対する検査能力・精度管理等の向上を目的とした講習	(web)	6
R4. 10. 5	令和4年度市立衛生研究所・衛生試験所連絡協議会総会	書面	1
R4. 10. 6	令和4年度第73回地方衛生研究所全国協議会総会	(web)	1
R4. 10. 25	令和4年度「地域保健総合推進事業」全国疫学情報ネットワーク構築会議	(web)	1
R4. 10. 31～ R4. 11. 1	令和4年度全国衛生化学技術協議会年会	川崎市	1
R4. 11. 4	令和4年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部自然毒部会研究発表会	(web)	2
R4. 11. 11	令和4年度 地方衛生研究所全国協議会近畿支部細菌部会研究会	(web)	6
R4. 11. 17	令和4年度アニサキスを中心とした寄生虫性食中毒に関する技術講習会	(web)	2
R4. 11. 18	令和4年度動物由来感染症レファレンスセンターWebミーティング	(web)	2
R4. 11. 18	家庭用品意見交換会	枚方市	1
R4. 11. 25	令和4年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部理化学部会研修会	(web)	5
R4. 12. 2	日本食品衛生学会ブロックイベント近畿ブロック第2回食品に関するリスクコミュニケーション公開セミナー		2
R4. 12. 16	令和4年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部第37回疫学情報部会研究会	(web)	1
R5. 1. 17	令和4年度地方保健総合推進事業 第2回近畿ブロック会議	(web)	1
R5. 1. 17	令和4年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部第3回総会	(web)	1
R. 5. 2. 2	令和4年度衛生理化学分野研修会	(web)	1
R5. 2. 15～ R5. 2. 16	令和4年度希少感染症診断技術研修会	(web)	1
R5. 2. 24	日本食品衛生学会 第5回近畿地区勉強会	茨木市	1
R5. 2. 27	全国地方衛生研究所 所長会議	(web)	1
R5. 3. 3	令和4年度結核対策推進会議	(web)	1
R5. 3. 20	大阪FETP拠点キックオフミーティング	(web)	2

## 東大阪市環境衛生検査センター案内図



徒 歩 近鉄八戸ノ里駅から 20 分

バ ス 近鉄八戸ノ里駅から市立東大阪医療センター行き乗車、下車後、  
北へ徒歩にて約 3 分

東大阪市環境衛生検査センター年報  
令和 5 年度版

第 18 号

発 行 東大阪市環境衛生検査センター

〒578-0947 東大阪市西岩田三丁目 3 番 2 号

TEL 06-6787-5021 FAX 06-6787-7404

E-mail [kankyokensa@city.higashiosaka.lg.jp](mailto:kankyokensa@city.higashiosaka.lg.jp)